



平成22年3月期 第1四半期決算短信〔米国会計基準〕

平成21年8月6日

上場会社名 コナミ株式会社

上場取引所 東

コード番号 9766 URL <http://www.konami.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上月 景正

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役執行役員副社長 (氏名) 山口 憲明 TEL (03) 5771-0222

四半期報告書提出予定日 平成21年8月14日 配当支払開始予定日 —

(百万円未満四捨五入)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績 (平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高及び営業収入		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	55,975	△20.9	1,000	△91.4	904	△92.3	367	△93.5
21年3月期第1四半期	70,805	16.7	11,611	65.6	11,718	61.2	5,664	46.6

	1株当たり 当社株主に帰属する 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当社株主に帰属する 四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	2.75	2.75
21年3月期第1四半期	41.23	41.18

(注) 当期より、四半期純利益は、米国財務会計基準書 (SFAS) 第160号の適用に伴い、「当社株主に帰属する四半期純利益」と表示しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	287,926	175,615	61.0	1,315.85
21年3月期	301,670	178,632	59.2	1,338.46

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	27.00	—	27.00	54.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	27.00	—	27.00	54.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高及び営業収入		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当社株主に帰属する 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 連結累計期間	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	310,000	0.1	30,000	9.6	28,500	15.3	16,000	47.1	119.88

(注) 1. 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 無

2. 当社は、第2四半期連結累計期間の業績予想を開示しておりません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）

① 会計基準等の改正に伴う変更： 有

② ①以外の変更： 無

(注)詳細は7ページをご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

①期末発行済株式数（自己株式を含む）

22年3月期第1四半期	143,500,000株	21年3月期	143,500,000株
-------------	--------------	--------	--------------

②期末自己株式数

22年3月期第1四半期	10,038,866株	21年3月期	10,038,498株
-------------	-------------	--------	-------------

③期中平均株式数（四半期連結累計期間）

22年3月期第1四半期	133,461,341株	21年3月期第1四半期	137,368,791株
-------------	--------------	-------------	--------------

※上記の予測には、本資料の発表日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれております。世界経済、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、6ページをご参照願います。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

(1) 当第1四半期連結会計期間の概況

当社グループを取り巻く経営環境は、昨年来の景気後退、円高の影響及び消費マインドの低下等による先行きの不透明感が続き、厳しい状況となりました。

娯楽産業（エンタテインメント）におきましては、アミューズメント施設市場では、信用収縮による影響により、依然として厳しい状況にあります。家庭用ゲーム市場では、2009年6月に米国で開催されたゲーム見本市「Electronic Entertainment Expo 2009 (E3)」において、様々な新商品・タイトルが発表され、日本国内はもちろん、北米・欧州を中心とした海外市場でも高い注目を集めました。

健康産業におきましては、高齢化社会の到来と生活習慣病予防対策としての特定保健指導の導入等、健康維持・増進に対する需要と関心の高まりが今後も引き続き期待されます。

このような状況のもと、当社グループのデジタルエンタテインメント事業におきましては、家庭用ゲームソフトでは、スポーツ・音楽コンテンツをマルチプラットフォームで展開し、堅調な販売を記録いたしました。また、「遊戯王トレーディングカードゲーム」シリーズを中心とするカードゲーム商品の販売も順調に推移いたしました。

健康サービス事業におきましては、直営施設の新規出店及び受託施設の拡大とともに、健康関連商品の開発・販売強化や健康管理のIT化を推進し、施設内外での健康維持・増進を支援するサービスの拡充に努めました。

ゲーミング&システム事業におきましては、北米及び豪州市場において、「K2V」シリーズ、「Advantage 5」シリーズ等スロットマシンの販売を強化いたしました。また、「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」やパーティシペーション（プロフィットシェア形式の機器販売方法）による販売も安定的に推移いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は559億7千5百万円（前年同期比20.9%減）となり、営業利益は10億円（前年同期比91.4%減）、税引前四半期純利益は9億4百万円（前年同期比92.3%減）、当社株主に帰属する四半期純利益は3億6千7百万円（前年同期比93.5%減）となりました。

(2) 事業の種類別セグメントの業績

事業別売上高及び営業収入（セグメント間含む）要約版

	前第1四半期 連結会計期間 (自2008年4月1日 至2008年6月30日)	当第1四半期 連結会計期間 (自2009年4月1日 至2009年6月30日)	増減率
	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
デジタルエンタテインメント事業	44,850	24,601	△45.1
健康サービス事業	22,174	21,438	△3.3
ゲーミング&システム事業	3,673	3,907	6.4
その他の事業又は全社・消去	108	6,029	5,482.4
連結合計	70,805	55,975	△20.9

(デジタルエンタテインメント事業)

国内におきましては、ゲームソフトでは、2009年4月に「'09 WORLD BASEBALL CLASSIC™」モードを搭載した「実況パワフルメジャーリーグ2009」を発売し、5月には「ウイニングイレブン」シリーズのWii向け最新作「ウイニングイレブン プレーメーカー2009」を発売いたしました。

また、iPhone/iPod touchを含めた携帯電話・携帯端末向けのゲームソフト配信についても、当社グループの持つ様々な人気コンテンツを活用した展開を推進いたしました。

業務用ビデオゲームでは、全国のアミューズメント施設をネットワークで結ぶ“e-AMUSEMENT”サービスを活用した、定番の音楽タイトル「GuitarFreaksV6 BLAZING!!!!」、「DrumManiaV6 BLAZING!!!!」や、業務用メダルゲームでは、中型プッシャー機「SPINFEVER 第2章 夢水晶と魔法のメロディー」が安定的に推移しましたが、昨年来の厳しい市場環

境の影響が続いております。

カードゲームでは、「遊戯王トレーディングカードゲーム」シリーズが、引き続き順調な売上を記録いたしました。北米と欧州におきましては、「DanceDanceRevolution」(欧州名「DancingStage」)シリーズ及び「PRO EVOLUTION SOCCER」シリーズの販売が堅調に推移いたしました。また、6月に米国で開催された「Electronic Entertainment Expo 2009 (E3)」においては、数多くのタイトルを発表し好評を博す等、各タイトルとも堅調に推移しておりますが、「METAL GEAR SOLID 4 GUNS OF THE PATRIOTS」といったビッグタイトルのあった前年同期と比較すると、売上は減少しております。

以上の結果、当事業における当第1四半期連結会計期間の売上高は246億1百万円(前年同期比45.1%減)となりました。

(健康サービス事業)

昨年来の金融不安の影響等により企業業績が悪化するとともに、雇用や所得への先行き不透明感から個人消費の抑制傾向が継続し、スポーツクラブ業界では、低価格化が進むとともに施設数の増加や会員獲得における厳しい環境が続いております。そのような状況の下、当社グループでは、施設内外のサービスと健康関連商品の両面における品質向上に努め、地域特性やお客様のニーズにあわせたサービスや商品ラインナップの拡大を図りました。

直営施設運営事業におきましては、2009年4月に本山南(兵庫県)、札幌円山(北海道)、5月に市川(千葉県)、北浜(大阪府)、心斎橋(大阪府)等、移転建替を含む、5施設をオープンいたしました。それぞれの地域の特色にあわせた施設展開やサービスの拡充を行うとともに、当社グループの強みである運動指導・栄養指導・健康管理のIT化を活かした健康増進プログラムの開発・導入を進める等、健康意識の高まるお客様に向けたサービスの提供に努めました。

受託施設運営事業におきましては、みかもクリーンセンター余熱利用施設(栃木県)、広島県立総合体育館(広島県)をはじめとする4施設を加え、公共施設等の運営に当社グループのノウハウや実績を役立て、地域社会の皆様の健康増進を推進いたしました。また、施設の閉鎖等を実施した結果、2009年6月末現在の当社グループの運営施設数は、直営施設と受託施設を合わせて全国343施設となりました。

健康商品事業では、2009年5月に、郵便局株式会社東京支社との提携により、健康関連商品のカタログ販売を開始する等、販売網の拡大を行いました。また、6月には携帯サイト「コナミスポーツクラブ」と連携が可能で、手軽に健康管理ができる新機能「コナミスポーツクラブウィジェット」を開発し、ソフトバンクモバイル株式会社の携帯電話への搭載を開始する等、新たな商品展開や健康管理のIT化を推進し、施設内外において健康維持・増進を支援する商品・サービスの拡充に努めました。

以上の結果、当事業における当第1四半期連結会計期間の売上高は214億3千8百万円(前年同期比3.3%減)となりました。

(ゲーミング&システム事業)

北米市場におきましては、5リールメカニカルスロットマシン「Advantage 5」シリーズや定番化したビデオスロットマシン「K2V」シリーズの販売が引き続き好評を博しており、保守サービスによる安定的な収益が確保できる「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」やパーティシペーションによる販売も順調に推移し、安定した収益を確保しております。また、中南米市場についても代理店網整備を進め、本格的な販売を開始しております。

豪州市場におきましては、経済の停滞や、主要州における設置台数制限、クラブやパブでの喫煙場所設置規制及び税制改正等の影響により需要の成長が止まりましたが、当社グループでは、「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」の本格導入やメカニカルスロットマシン「Advantage 5」の販売等、新商品の継続的な投入やサービスの向上により、収益が改善いたしました。

また、「Indian Gaming '09 Trade Show」(4月/アメリカ・アリゾナ)、「Canadian Gaming Summit」(4月/カナダ・オンタリオ)、「SOUTHERN GAMING SUMMIT」(5月/アメリカ・ミシシッピ)、「South American Gaming Suppliers Expo Panama」(5月/パナマ・パナマシティ)、「Global Gaming Expo Asia」(6月/中国・マカオ)等、世界各地の様々な展示会に出展し、北米で注目を集めている「Advantage 5」シリーズをはじめ、新しいコンセプトのフリーゲームを搭載した「K2V」シリーズ、リンクプログレッシブマシン「Beat the Field」、新筐体「Podium」等、各市場に対応した幅広い商品ラインナップを披露し好評を博しました。

以上の結果、当事業における当第1四半期連結会計期間の売上高は39億7百万円（前年同期比6.4%増）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間の概況

	前第1四半期 連結会計期間 (自2008年4月1日 至2008年6月30日)	当第1四半期 連結会計期間 (自2009年4月1日 至2009年6月30日)	増減
区 分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,810	△6,952	△11,762
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,027	△2,161	△1,134
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,099	△4,423	△324
為替変動の現金及び現金同等物に対する 影響額	1,129	304	△825
現金及び現金同等物の純増減(△)額	813	△13,232	△14,045
現金及び現金同等物の期末残高	52,943	40,336	△12,607

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比較して132億3千2百万円減少し、当第1四半期連結会計期間末には403億3千6百万円（前年同期比23.8%減）となりました。

また、当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローは、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結会計期間において営業活動により使用した資金は、69億5千2百万円（前第1四半期連結会計期間は48億1千万円の獲得）となりました。

これは主として、非支配持分控除前四半期純利益や前受収益の減少があったほか、仕入債務に係る資金収支の減少があったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結会計期間において投資活動により使用した資金は、21億6千1百万円（前年同期比110.4%増）となりました。

これは主として、設備投資等の資本的支出が減少した一方、前第1四半期連結会計期間には有形固定資産の売却による収入があったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結会計期間において財務活動により使用した資金は、44億2千3百万円（前年同期比7.9%増）となりました。

これは主として、配当金の支払による支出があったこと等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当期の見通し

(デジタルエンタテインメント事業)

デジタルエンタテインメントでは、成熟化している国内に加え、市場規模が大きい欧米のゲームソフト市場に引き続き注力してまいります。特に、全世界で高い評価を得ているサッカーゲーム「ウイニングイレブン」(欧米名「PRO EVOLUTION SOCCER」)シリーズや、北米で根強い人気を維持する音楽ゲーム「DanceDanceRevolution」シリーズ等、当社グループの強みとするスポーツ・音楽コンテンツに加え、アニメコンテンツやオリジナルコンテンツの開発に注力してまいります。また、ネットワーク接続比率が高まるゲーム機や、携帯電話・携帯端末に向けたダウンロード販売や、ダンジョン探検型RPG「Chaotic Eden」等のオンラインコンテンツ配信にも注力してまいります。

業務用ビデオゲームでは、“e-AMUSEMENT”サービスを利用した商品ラインナップの更なる拡充を図り、音楽ゲーム「jubeat ripples」、カード競馬シミュレーションゲーム「HORSERIDERS2」、メダルゲームでは、新ジャンルマスメダルゲーム「InfinityRings」を発売いたします。また、「麻雀格闘倶楽部」、「BASEBALL HEROES」といった定番シリーズや、新規タイトルについても市場環境を見ながら発売していく予定です。

カードゲームでは、「遊戯王トレーディングカードゲーム」シリーズを引き続きワールドワイドに展開してまいります。

なお、人気コンテンツについては、ゲームソフトや業務用ビデオゲーム、カードゲームに留まらず、多面展開しながら、高いシナジーを追求してまいります。

(健康サービス事業)

健康サービスでは、「運動する」、「癒す」、「食べる」をテーマに、運動指導と栄養指導を両立させた健康プログラムの開発と提供、効果的で実用性の高い健康関連機器の開発等に取り組んでおり、今後も健康分野における様々なサービスの可能性に挑戦してまいります。また、300を超える国内最大規模のスポーツクラブを運営している強みを最大限に活用し、施設プログラムの充実・健康管理のIT化・商品拡充等の相乗効果を生み出して、健康サービス事業を推進してまいります。

市場環境は、昨年来の世界的な景気後退の影響により国内の個人消費の抑制傾向が続く中で、若年層会員の減少や施設数増加による競争激化、施設当たりの会員数の減少等、厳しい状況が続いております。

しかし、高齢化社会の到来と国家レベルでの生活習慣病対策としての特定保健指導導入等を背景に、社会全体における健康意識は高まっており、スポーツクラブ運営や健康機器開発・販売等の機会は今後も広がっていくと思われれます。

当社グループでは引き続き、地域特性やお客様のニーズにあわせたサービス展開や商品ラインナップの拡大に努めてまいります。また、事業環境の変化に応じて、施設内外を問わずに健康維持・増進を支援するサービスの拡充を目指してまいります。

(ゲーミング&システム事業)

北米及び豪州市場においてメカニカルスロットマシン「Advantage 5」シリーズが好評を博しており、今後、他市場に向けても積極的な販売を進めてまいります。また、豪州や中南米で主流となっているビデオスロットマシンについては、引き続き定番となっている「K2V」シリーズを中心に商品展開及び販売強化を行い、新筐体「Podium」をはじめとする新商品の開発、市場投入も行ってまいります。

「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」については、北米及び豪州市場において大手オペレーターを中心に導入が進んでおります。今後積極的に他市場へ向けて販売を行うとともに、新機能の開発や他社との戦略的提携等を行いながら、商品力の強化に努めてまいります。さらに、パーティシペーションの販売強化も行うことで定期収入を増加させ、経営の安定化を図ります。

米国・豪州・日本の3拠点の連携をさらに強化し、経営の効率化、生産、販売の強化を推進し、社会の変化や需要に対応した新商品開発や既存商品の付加価値向上に努め、今後も当社グループの強みであるエンタテインメント性をベースに、お客様により一層楽しんで頂ける新商品の提案を図ってまいります。

当期の通期連結業績につきましては、売上高及び営業収入3,100億円、営業利益300億円、税引前当期純利益285億円、当社株主に帰属する当期純利益160億円と予想しており、2009年5月14日付「平成21年3月期 決算短信」において公表いたしました業績予想から変更ございません。

なお、第2四半期連結累計期間の連結業績予想につきましては、当社の事業はヒットビジネスであり、機動的に商品投入を行っていく必要があることから、期中を通じ売上の変動があるため、開示しておりません。

四半期の業績開示につきましては、今後も一層の充実を図ってまいります。

注意事項

本短信の業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみで全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、ご承知おきください。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、対ドル、対ユーロをはじめとする円の為替レート等が含まれます。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）

①会計基準等の改正に伴う変更

(a) 企業結合

2009年4月1日より、SFAS第141号「企業結合」の改訂版(SFAS第141号改訂版)を適用しております。SFAS第141号改訂版は、買収企業が取得した資産、引き継いだ負債、被買収企業の非支配持分及び取得した営業権の認識及び測定について規定しております。なお、適用時点において、SFAS第141号改訂版の適用による当社及び子会社の財政状態及び経営成績に対する重要な影響はありません。

(b) 連結財務諸表における非支配持分

2009年4月1日より、SFAS第160号「連結財務諸表における非支配持分—ARB第51号の改訂」を適用しております。SFAS第160号は、子会社の非支配持分に関する会計処理及び子会社を連結から除外する際における会計処理について規定しております。また、SFAS第160号は、親会社及び非支配持分へ帰属する金額を連結当期純利益に含めること、子会社が連結から除外された際に、親会社は利益または損失を認識すること及び親会社持分と非支配持分とを明確に特定し、識別して開示することを要求しております。SFAS第160号の適用に伴い、当社及び子会社は、従来、連結貸借対照表の負債の部と資本の部の中間に分類していた少数株主持分を非支配持分として純資産の部に含めて表示するほか、連結損益計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書の表示科目を変更しております。また、過年度の連結財務諸表についても、当年度の表示方法に合わせて組替再表示しております。

② ①以外の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

区分	前第1四半期 連結会計期間末 (2008年6月30日)		当第1四半期 連結会計期間末 (2009年6月30日)		前連結会計年度末 (2009年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(資産の部)						
I 流動資産						
1. 現金及び現金同等物	52,943		40,336		53,568	
2. 受取手形及び売掛金(貸倒引当金控除後)－2008年6月30日、2009年6月30日及び2009年3月31日現在の貸倒引当金はそれぞれ265百万円、482百万円及び470百万円	41,773		22,868		30,624	
3. 棚卸資産	34,742		27,134		23,512	
4. 繰延税金資産	19,326		19,346		19,203	
5. 前払費用及びその他の流動資産	12,519		12,987		9,768	
流動資産合計	161,303	47.5	122,671	42.6	136,675	45.3
II 有形固定資産	66,368	19.5	61,093	21.2	60,552	20.1
III 投資及びその他の資産						
1. 市場性のある有価証券	598		494		560	
2. 関連会社に対する投資	6,386		2,066		2,119	
3. 識別可能な無形固定資産	38,147		35,832		35,883	
4. 営業権	21,965		21,914		21,925	
5. 差入保証金	28,425		28,364		27,959	
6. 繰延税金資産	2,970		3,578		3,641	
7. その他の資産	13,357		11,914		12,356	
投資及びその他の資産合計	111,848	33.0	104,162	36.2	104,443	34.6
資産合計	339,519	100.0	287,926	100.0	301,670	100.0

区分	前第1四半期 連結会計期間末 (2008年6月30日)		当第1四半期 連結会計期間末 (2009年6月30日)		前連結会計年度末 (2009年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(負債の部)						
I 流動負債						
1. 1年内返済予定の長期借入債務及び キャピタル・リース債務	8,061		3,277		3,627	
2. 支払手形及び買掛金	24,945		14,260		17,430	
3. 未払税金	5,072		428		6,683	
4. 未払費用	19,105		15,165		17,738	
5. 前受収益	20,907		6,694		7,586	
6. その他の流動負債	11,750		11,582		9,322	
流動負債合計	89,840	26.5	51,406	17.8	62,386	20.7
II 固定負債						
1. 長期借入債務及びキャピタル・リース 債務(1年内返済予定分を除く)	35,706		38,836		37,739	
2. 未払退職・年金費用	2,694		2,725		2,941	
3. 繰延税金負債	11,718		6,421		6,564	
4. その他の固定負債	8,098		8,144		8,501	
固定負債合計	58,216	17.1	56,126	19.5	55,745	18.5
負債合計	148,056	43.6	107,532	37.3	118,131	39.2
(契約債務及び偶発債務)						
契約債務及び偶発債務						
(純資産の部)						
I 株主資本						
1. 資本金	47,399	13.9	47,399	16.5	47,399	15.7
普通株式—無額面： 授權株式数 450,000,000株、 発行済株式数 2008年6月30日、2009年 6月30日及び2009年3月31日現在 143,500,000株						
2. 資本剰余金	77,084	22.7	77,090	26.8	77,090	25.6
3. 利益準備金	284	0.1	284	0.1	284	0.1
4. 利益剰余金	75,449	22.2	73,711	25.6	76,947	25.5
5. その他の包括利益累計額	4,444	1.3	318	0.1	98	0.0
6. 自己株式—取得原価 2008年6月30日現在 6,055,241株 2009年6月30日現在 10,038,866株 2009年3月31日現在 10,038,498株	△17,758	△5.2	△23,187	△8.1	△23,186	△7.7
株主資本合計	186,902	55.0	175,615	61.0	178,632	59.2
II 非支配持分	4,561	1.4	4,779	1.7	4,907	1.6
純資産合計	191,463	56.4	180,394	62.7	183,539	60.8
負債及び純資産合計	339,519	100.0	287,926	100.0	301,670	100.0

(2) 四半期連結損益計算書

区分	前第1四半期 連結会計期間 (自 2008年4月1日 至 2008年6月30日)		当第1四半期 連結会計期間 (自 2009年4月1日 至 2009年6月30日)		前連結会計年度 (自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)	
	金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)
I 売上高及び営業収入						
1. 製品売上高	50,407		36,883		227,821	
2. サービス収入	20,398		19,092		81,950	
売上高及び営業収入合計	70,805	100.0	55,975	100.0	309,771	100.0
II 営業費用						
1. 製品売上原価	25,215		21,579		133,670	
2. サービス原価	19,626		19,102		78,966	
3. 販売費及び一般管理費	14,353		14,294		58,653	
4. 構造改革費用	—		—		11,121	
営業費用合計	59,194	83.6	54,975	98.2	282,410	91.2
営業利益	11,611	16.4	1,000	1.8	27,361	8.8
III その他の収益(費用)						
1. 受取利息	197		35		459	
2. 支払利息	△399		△397		△1,468	
3. 為替差損益—純額	295		269		△1,641	
4. その他—純額	14		△3		8	
その他の収益(費用)—純額	107	0.1	△96	△0.2	△2,642	△0.8
税引前四半期(当期)純利益	11,718	16.5	904	1.6	24,719	8.0
IV 法人税等	5,791	8.1	436	0.7	10,715	3.5
V 持分法投資利益(損失)—純額	29	0.0	20	0.0	△2,490	△0.8
非支配持分控除前四半期(当期)純利益	5,956	8.4	488	0.9	11,514	3.7
VI 非支配持分帰属利益	292	0.4	121	0.2	640	0.2
当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	5,664	8.0	367	0.7	10,874	3.5

(1株当たり情報)

区分	前第1四半期 連結会計期間 (自 2008年4月1日 至 2008年6月30日)	当第1四半期 連結会計期間 (自 2009年4月1日 至 2009年6月30日)	前連結会計年度 (自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)
1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	41.23円	2.75円	79.30円
潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	41.18円	2.75円	79.30円
加重平均発行済株式数	137,368,791株	133,461,341株	137,124,130株
潜在株式調整後発行済株式数	137,560,824株	133,461,341株	137,124,130株

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第1四半期 連結会計期間 (自 2008年4月1日 至 2008年6月30日)	当第1四半期 連結会計期間 (自 2009年4月1日 至 2009年6月30日)	前連結会計年度 (自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)
区分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
非支配持分控除前四半期(当期)純利益	5,956	488	11,514
営業活動によるキャッシュ・フローへの 調整項目			
減価償却費	2,950	3,140	13,731
貸倒引当金の純増減(△)	0	15	209
構造改革費用	—	—	11,121
持分法投資損益(△)	△29	△20	2,490
繰延税額	△1,139	△160	△4,811
資産及び負債の増減			
受取手形及び売掛金の純増(△)減	△7,039	6,505	175
棚卸資産の純増(△)減	△10,020	△3,647	△1,424
未収入金の純増(△)減	1,267	△110	1,111
前払費用の純増(△)減	△1,706	△793	△918
支払手形及び買掛金の純増減(△)	3,908	△2,602	△556
未払税金及び未収税金の純増減(△)	△6,038	△8,619	△2,157
未払費用の純増減(△)	△2,175	△3,017	△1,266
前受収益の純増減(△)	13,058	△878	△234
前受金の純増減(△)	1,546	△27	△796
預り金の純増減(△)	1,831	2,326	△93
その他—純額	2,440	447	2,035
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,810	△6,952	30,131

	前第1四半期 連結会計期間 (自 2008年4月1日 至 2008年6月30日)	当第1四半期 連結会計期間 (自 2009年4月1日 至 2009年6月30日)	前連結会計年度 (自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)
区分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
資本的支出	△3,713	△1,585	△8,531
有形固定資産の売却による収入	1,315	—	1,355
差入保証金の純増(△)減	1,410	△590	1,616
その他—純額	△39	14	△155
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,027	△2,161	△5,715
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
長期借入債務の返済による支出	△148	△148	△592
社債の償還による支出	—	—	△5,000
キャピタル・リース債務の元本返済による支出	△682	△679	△2,886
配当金の支払	△3,560	△3,595	△7,414
自己株式の取得による支出	△94	△1	△5,576
その他—純額	385	0	464
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,099	△4,423	△21,004
IV 為替変動の現金及び現金同等物に対する影響額	1,129	304	△1,974
V 現金及び現金同等物の純増減(△)額	813	△13,232	1,438
VI 現金及び現金同等物の期首残高	52,130	53,568	52,130
VII 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	52,943	40,336	53,568

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報

①事業別セグメント情報

前第1四半期連結会計期間 (自 2008年4月1日 至 2008年6月30日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	その他又は 全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	44,779	22,078	3,673	275	70,805
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	71	96	—	△167	—
計	44,850	22,174	3,673	108	70,805
営業費用	31,691	21,590	3,201	2,712	59,194
営業損益	13,159	584	472	△2,604	11,611

当第1四半期連結会計期間 (自 2009年4月1日 至 2009年6月30日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	その他又は 全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	24,504	21,348	3,907	6,216	55,975
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	97	90	—	△187	—
計	24,601	21,438	3,907	6,029	55,975
営業費用	23,054	21,415	3,224	7,282	54,975
営業損益	1,547	23	683	△1,253	1,000

前連結会計年度 (自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	その他又は 全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	187,308	89,702	18,336	14,425	309,771
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	320	263	—	△583	—
計	187,628	89,965	18,336	13,842	309,771
営業費用	146,076	98,235	14,889	23,210	282,410
営業損益	41,552	△8,270	3,447	△9,368	27,361

1. 各事業別セグメントにおける主な事業内容は、以下のとおりであります。
 - ①デジタルエンタテインメント事業 ゲームソフト、アミューズメント、カードゲーム、オンライン等のデジタルコンテンツ及びそれに関わる製品の制作、製造及び販売
 - ②健康サービス事業 スポーツクラブ施設運営、フィットネス機器及び健康関連商品の制作、製造及び販売
 - ③ゲーミング&システム事業 カジノ施設向けゲーミング機器及びカジノマネジメントシステムの開発、製造、販売及びサービス
2. その他の項目は、SFAS第131号「企業のセグメント及び関連情報に関する開示」における量的基準を満たさない事業から構成されております。
3. 全社の項目は、主に本社費用から構成されております。
4. 消去の項目は、主にセグメント間取引高消去及び棚卸資産の未実現利益消去等から構成されております。

②所在地別セグメント情報

前第1四半期連結会計期間（自 2008年4月1日 至 2008年6月30日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	56,345	7,865	5,264	1,331	70,805	—	70,805
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,831	857	3	120	4,811	△4,811	—
計	60,176	8,722	5,267	1,451	75,616	△4,811	70,805
営業費用	49,889	7,748	4,757	1,606	64,000	△4,806	59,194
営業損益	10,287	974	510	△155	11,616	△5	11,611

当第1四半期連結会計期間（自 2009年4月1日 至 2009年6月30日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	45,444	5,643	2,951	1,937	55,975	—	55,975
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,037	862	4	77	2,980	△2,980	—
計	47,481	6,505	2,955	2,014	58,955	△2,980	55,975
営業費用	46,478	6,550	3,190	1,712	57,930	△2,955	54,975
営業損益	1,003	△45	△235	302	1,025	△25	1,000

前連結会計年度（自 2008年4月1日 至 2009年3月31日）

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	223,662	44,051	37,216	4,842	309,771	—	309,771
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	24,762	4,266	96	596	29,720	△29,720	—
計	248,424	48,317	37,312	5,438	339,491	△29,720	309,771
営業費用	229,411	43,779	33,158	5,784	312,132	△29,722	282,410
営業損益	19,013	4,538	4,154	△346	27,359	2	27,361

外部顧客に対する売上高については、製品が販売され、サービスが提供される場所に基づいてそれぞれの地域を決定しております。

北米は、主としてアメリカ合衆国から構成されております。

(注記)

この連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められた会計原則に基づいて作成しております。